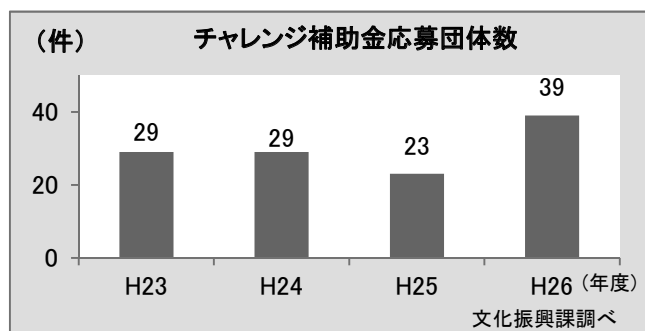


主担当部局(長)名	地域振興部長 一松 旬
関係部局(長)名	知事公室長 村井 浩、南部東部振興監 辻本 浩司、観光局長 福井 義尚、くらし創造部長 中 幸司、まちづくり推進局長 金剛 一智、教育長 吉田 育弘

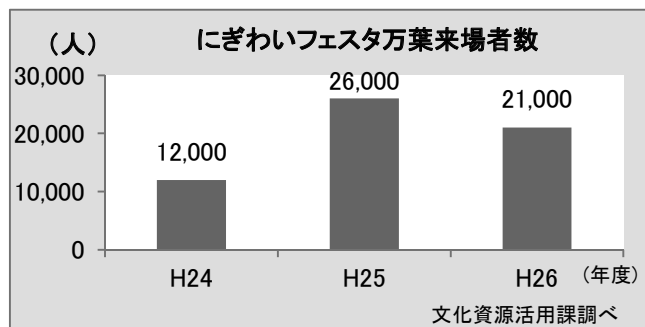
重点課題	Ⅱ くらしの向上 6 文化の振興
------	---------------------

目指す姿	奈良の歴史文化の魅力や背景を分かりやすく伝えることや質の高い文化芸術イベントを実施することにより、文化力を高めるとともに、文化芸術への参加、鑑賞の機会を拡大し、活動の裾野拡大を図ります。また、文化を核にしたまちづくりによる地域活性化を進めます。
------	--

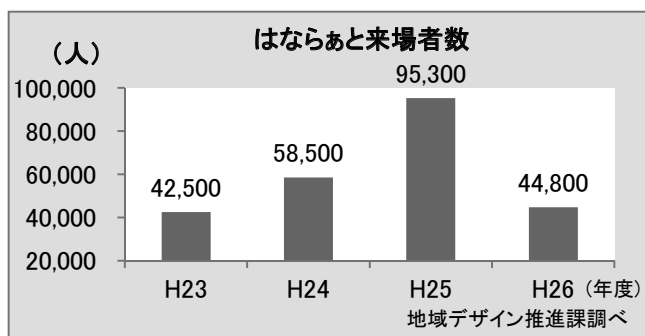
1. 政策課題の進捗状況



目標	平成28年度までに「芸術・文化」を行う県民の割合を全国1位にします。(H23年度:2位)
取組	「新たな文化活動チャレンジ補助金事業」を実施しました。
成果	平成23年度より県内の文化芸術団体の優れた取り組みに対して補助を実施し、市町村枠を設けたことにより、応募団体数は39団体と平成25年度に比べ大幅に増加しました。

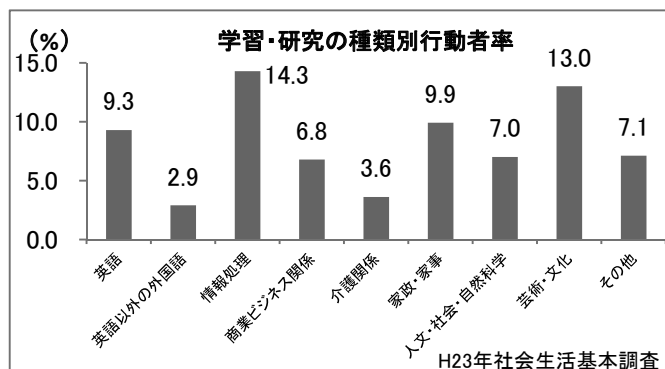


目標	文化施設が核となり、県内各地の地域のにぎわいを創ります。
取組	県立美術館展覧会事業、県立万葉文化館展覧会開催事業を実施しました。
成果	美術館では特別展をはじめとする展覧会に約132,000人が来場し、万葉文化館では季節ごとに開催されるイベントの来場者数が2年連続で2万人を超え、工夫を凝らしたイベント等により、地域のにぎわいを創りました。

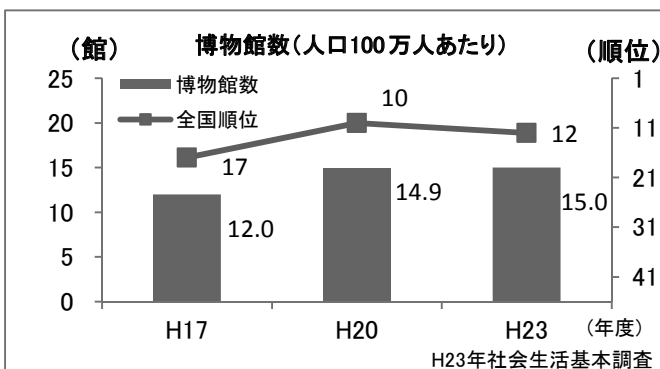


目標	奈良の歴史文化の情報発信や奈良らしい文化芸術イベントを実施し、県内外からの交流を活発にすることにより、県内の文化関連消費を高めます。
取組	「ムジークフェストなら2014」、「奈良・町家の芸術祭はならあと2014」を開催しました。
成果	・「ムジークフェストなら2014」では、上質な文化・芸術に触れる機会を県民に提供するとともに、地元で活躍する音楽家にも出演の機会を提供することで、県内の文化芸術活動の活性化を図りました。 ・「奈良・町家の芸術祭はならあと2014」では、開催日数が前年度と比べ71日から49日に減少したことにより、来場者が44,800人と減少しました。

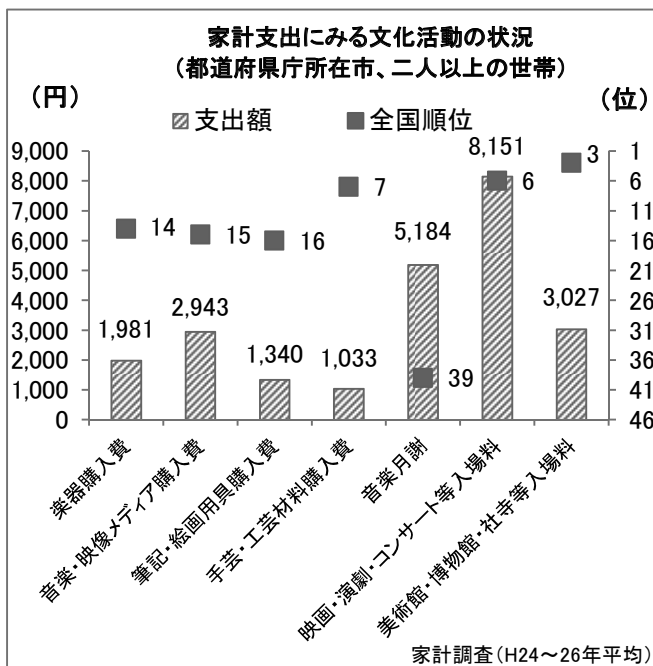
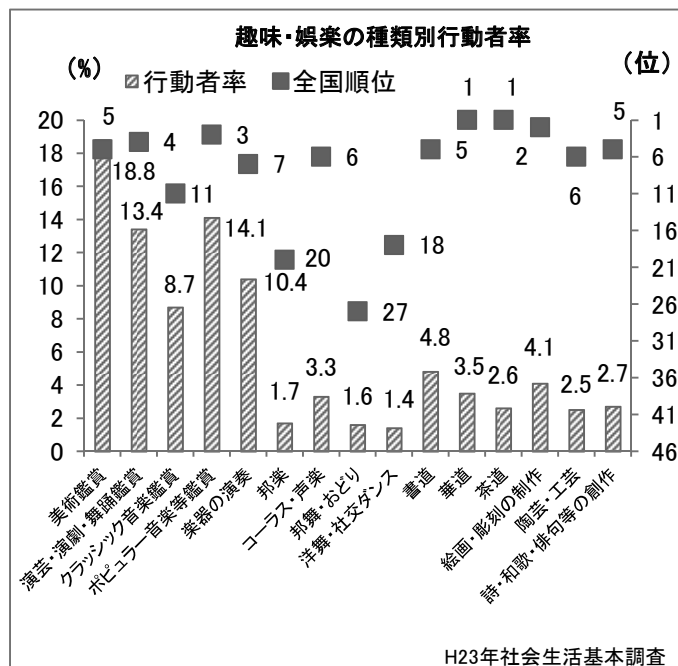
2. 現状分析



奈良県民の学習・研究の種類別行動者率を見ると「芸術・文化」を行う県民の割合が13%であり、全国2位の高さです。



人口100万人当たりの博物館数は平成23年度は15館と全国12位の高さです。



趣味・娯楽における文化芸術を行う割合は全国に比較し高い水準です。美術鑑賞は全国5位、演芸・演劇・舞踊鑑賞は全国4位、ポピュラー音楽等鑑賞は全国3位、華道、茶道は全国1位、絵画・彫刻の制作は全国2位と全国順位の高い分野が多くなっています。

文化芸術にかかる支出額は全国に比較し高い水準です。美術館・博物館・社寺等入場料は全国3位、手芸・工芸材料購入費は全国7位、映画・演劇・コンサート等入場料は全国6位、音楽・映像メディア購入費は全国15位と全国順位の高い分野が多くなっています。

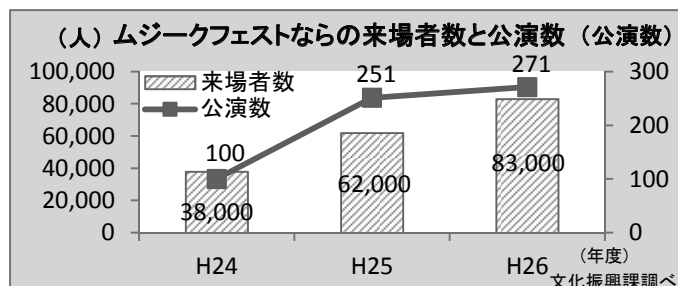
目的達成のプラス要因	奈良県の持っている強み	内部(内的要因)	奈良県の抱えている弱み
	1 学習・研究で「芸術・文化」を行う県民の割合が13%で、全国2位 2 趣味・娯楽で芸術鑑賞・文化芸術を行う県民の割合が全国的に見て高い分野が多い 3 文化活動に関する家計支出額が全国的に見て比較的高い水準 4 人口100万人あたりの博物館数が全国12位 5 3つの世界遺産をはじめとして文化遺産が豊富 6 コンサート等を開催できる世界遺産が所在(東大寺、薬師寺等) 7 能楽の発祥地 8 数多く残されている歴史的な町並み等の文化的景観 9 文化資源活用課を設置し、文化資源の利活用を積極的に行う体制を整備		10 多くの観客を収容できる施設が少なく、トップアーティストの招聘が困難 11 文化活動発表の場が少なく、アーティストは県外に活動拠点を求める傾向 12 県立の文化施設が老朽化
	奈良県への追い風	外部(外的要因)	奈良県への向かい風
	a 景気回復による文化関連消費の増加への期待 b 歴史的な町並み等の文化的景観が多くの人に見直されつつある c 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定 d 2017年に奈良県で国民文化祭開催決定 e 国による地方創生の動き		f 著名なアーティストや作品は大都市での公演、展示に集中する傾向

3. 施策課題の進捗状況

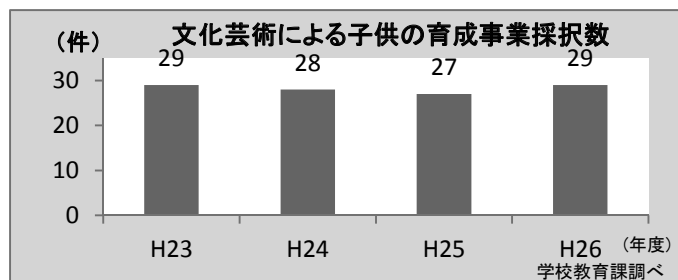
戦略1 奈良らしい歴史文化、質の高い文化芸術を活用して、文化力を向上します。

主担当課(長)名 文化振興課長 辻本 智宏

戦略目標	▶伝統芸能など奈良が持っている質の高い文化資源を活用して、奈良の文化力を高めます。 ▶奈良から世界で活躍するようなトップアーティストを輩出します。 ▶国内外で活躍しているアーティスト等を招聘し、県内で上質な文化芸術催事を開催します。 ▶奈良の歴史展示を推進することにより、奈良の歴史の魅力や文化の背景をわかりやく伝えます。 ▶県内の古文書等を調査、整理し、広く県内外に公開することにより、奈良の歴史的価値を高めます。 ▶有識者の講演録など県が保有する知的情報を広く県内外に発信し、奈良のステイタスを高めます。
------	---



取組	奈良だからこそできる音楽祭として「ムジークフェストなら2014」を開催しました。
成果	平成26年6月14日から29日の16日間、街中が音楽であふれる音楽祭「ムジークフェストなら2014」を開催し、県民への周知が進んだことや広報の強化により、来場者数約83,000人、公演数271と平成24年度と比べ来場者数、公演数共に倍以上となりました。



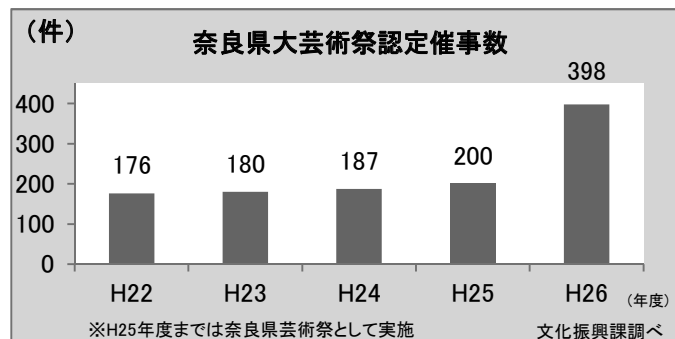
取組	上質な芸術文化に触れる機会を提供しました。
成果	奈良県大芸術祭を開催し315団体の参加があったほか、文化芸術による子供の育成事業により、県内32校の小中学生が、様々なジャンルの一流アーティストのワークショップ(実技指導)の体験及び公演の鑑賞を行い、採択件数も29件と一定のレベルで推移しています。

主な取組指標等	平成24年度	平成25年度	平成26年度	担当課名
奈良だからこそできる音楽祭の開催				
ムジークフェストなら開催市町村数(市町村)	2	7	8	文化振興課
ムジークフェストなら開催日数(日)	11	17	16	文化振興課
上質な芸術文化に触れる機会の提供				
県立美術館での展覧会催事数(件)	5	5	4	文化資源活用課
県立万葉文化館での展覧会催事数(件)	7	6	7	文化資源活用課
文化芸術による子供の育成事業採択数(件)	28	27	29	学校教育課
未来のトップアーティストの育成				
県立ジュニアオーケストラの公演活動数(件)	8	8	8	文化振興課

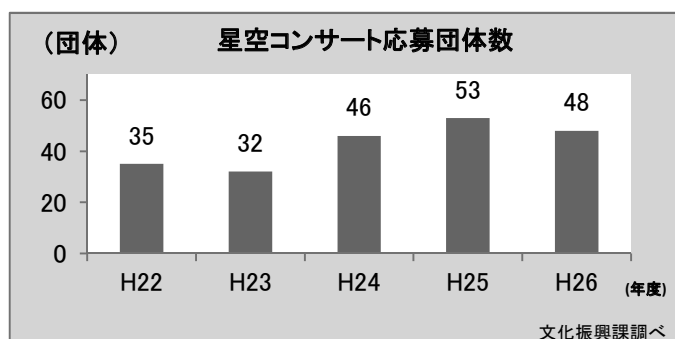
これまでの成果

- ・文化ビジョン策定のため、県民アンケートや県外有識者に対する意見聴取を実施しました。
- ・県立ジュニアオーケストラは、定期演奏会のほか、「ムジークフェストなら2014」「平城京天平祭」「浜名湖花博2014」等の多数の演奏活動を実施したほか、プロのソリストとの共演も実施しました。また、平成27年3月の定期演奏会ではフルオーケストラ編成による公演を実施しました。
- ・平成26年度から奈良県大芸術祭を開催し、県内27市町村で398件の催事が開催され、約97万人の参加がありました。
- ・「古代・奈良の歴史クイズ看板」を10基設置するとともに、「今日は何の日」デジタルサイネージで情報発信しました。また、「庁中漫録」の翻刻が7巻完成しました。
- ・奈良県が保有する知的情報の発信のため、奈良県文化セミナーを3回開催(延べ94人参加)し、講演内容の概要を県ホームページで公開しました。

戦略目標	▶「うるおい」と「やすらぎ」のある県として県内外からの関心を高めます。 ▶老若男女の様々な層の文化芸術活動の活発化により、県民の文化芸術に対する満足度を高めます。 ▶文化芸術の参加と鑑賞の機会を拡大し、県民だれもが、県内各地で文化芸術に接する機会を創ります。
------	--



取組	「新たな文化活動チャレンジ補助金」の交付や奈良県大芸術祭での催事認定により、文化芸術団体への支援の拡充・強化を行いました。
成果	「新たな文化活動チャレンジ補助金事業」では、39団体の応募があり、新たな文化活動事業を始めようとする団体の増加により、新規申請数も10団体から16団体と大幅に増加しました。また、奈良県大芸術祭では、広報等の強化により、平成25年度の倍近い398催事を認定しました。



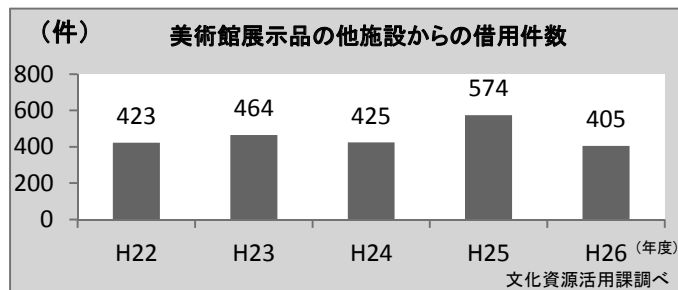
取組	県庁スペース(県庁玄関前)を利用し、文化芸術団体が行う発表の場を拡充しました。
成果	なら燈花会の期間にあわせて県庁前で開催した県庁星空コンサートでは、48団体の応募があり、うち8団体が演奏を披露しました。応募団体数は、前年度より減少しましたが、例年の平均を上回る応募がありました。

主な取組指標等	平成24年度	平成25年度	平成26年度	担当課名
文化芸術団体が行う発表の場の拡充・強化				
奈良・町家の芸術祭はならあと出展作家数(人)	140	290	85	地域デザイン推進課
奈良県美術展覧会応募作品数(件)	841	862	895	文化振興課
奈良県ジュニア美術展覧会応募作品数(件)	705	774	734	文化振興課
文化芸術団体への支援の充実・強化				
新たな文化活動チャレンジ補助金新規申請数(団体)	16	10	16	文化振興課
奈良県にゆかりのある催事の後援数(件)	132	134	150	文化振興課

これまでの成果

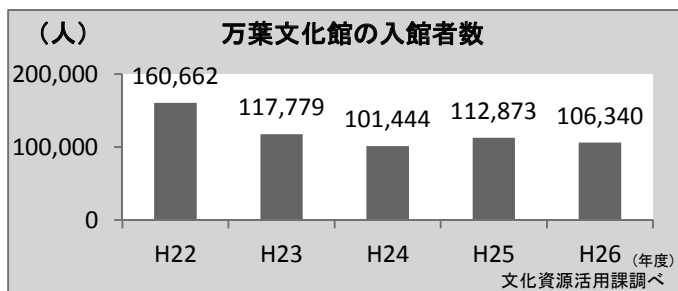
- ・文化芸術団体等が自らの創意工夫に基づいて企画・運営する文化活動に対して、審査のうえ支援を実施しました。平成26年度は39団体の応募があり、29団体に対して補助金を交付しました。平成26年度から、市町村等に対する補助枠を設け、6市町村に対して補助金を交付しました。
- ・県庁星空コンサートの参加者を県民公募し48団体の応募があり、音楽活動団体への活動の場を提供しました。また、奈良県美術展、奈良県ジュニア美術展を開催し、広く作品を公募し公表することで、美術創作活動を行う人たちの活動の機会を提供しました。平成26年度は奈良県美術展では895件、奈良県ジュニア美術展展覧会では734件の作品応募がありました。
- ・「奈良・町家の芸術祭はならあと」では、地域の実情や課題をアートに反映させることにより、新しいまたは気づかなかった奈良への視点を提示する可能性を追求しました。平成26年度は県内の歴史的な町並みが残る8地域で、計49日間にわたって開催し、総来場者数は44,800人でした。

戦略目標	▶県内文化施設が有機的に連携するとともに、新たなイベントにより、地域のにぎわい拠点とします。 ▶県内の社寺等をはじめ、地域の文化観光資源を活用した新しい文化芸術活動などにより地域の文化価値を高めます。 ▶地域の文化芸術活動を促進し、各地域を元気にする文化芸術活動のリーダーを育成します。
------	--



取組 文化施設等の連携の強化として、美術館、万葉文化館の展覧会で他施設等の美術品等を展示しました。

成果 美術館では展覧会数が減り借用件数は少なくなったものの、万葉文化館でも美術品等の借用により展示を充実しました。また、県内の美術館・博物館を紹介した「奈良のミュージアム」(35,000部発行)に各館の展示スケジュールを掲載し、一体広報を実施しました。



取組 県内の文化施設が核となって、様々なイベントを実施することで、地域のにぎわいを創出しました。

成果 中南和地域の親しみやすい文化施設として、万葉文化館では季節ごとに「にぎわいフェスタ」を実施、公開講座、講演会、コンサート等も開催し、入館者数は少し減少したものの10万人を超えました。また、民俗博物館では都市公園と古民家を活用した古民家活用事業(約1,800人参加)を実施しました。

主な取組指標等	平成24年度	平成25年度	平成26年度	担当課名
県内の文化施設が核となり、地域のにぎわいを創出				
奈良県文化会館の年間利用者数(人)	326,661	337,153	348,323	文化振興課
橿原文化会館の年間利用者数(人)	154,526	181,021	156,280	文化振興課
県立美術館の入館状況(人)	148,402	64,974	132,011	文化資源活用課
民俗博物館の入館状況(人)	19,730	19,375	20,399	文化資源活用課
図書情報館の入館者数(人)	578,022	554,006	540,149	文化資源活用課
橿原考古学研究所附属博物館の入館者数(人)	51,157	48,704	51,246	文化資源活用課
文化施設等の連携の強化				
万葉文化館展示品の他施設から借用件数(件)	172	225	262	文化資源活用課

これまでの成果

- ・文化施設等の館長、管理職を対象とした研修会を実施、76名が参加し、文化施設の魅力の発信、連携の強化を図りました。
- 奈良県文化会館では、県内の文化施設の協議会を開催し、施設の運営、広報の協力に関する協議を実施しました。また、橿原文化会館では、平成25年度から中南和に所在する公立文化会館の連絡会議を立ち上げ、中南和における文化会館施設の運営、広報の協力に関する協議を実施しました。
- ・県立美術館、橿原考古学研究所附属博物館では、展覧会の内容をより深く理解できるよう展覧会に関連した講座や講演会等を実施しました。平成26年度は、県立美術館で70件、橿研附属博物館で34件を開催しました。
- ・図書情報館では、奈良県の歴史と文化の伝承と創造の発信メディアとして、さまざまなイベントを実施し、年間約54万人が来場しました。
- ・「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の世界遺産登録に向け、登録推進協議会において普及啓発等諸事業を実施しました。

4. 平成28年度に向けた課題の明確化

＜政策課題の進捗状況＞ ・「新たな文化活動チャレンジ補助金事業」を実施し、平成26年度の応募団体数は39団体と平成25年度に比べて大幅に増加しました。 ・「展覧会やイベントを開催し、県立美術館では13,200人、万葉文化館では季節のイベントに2年連続2万人を超える来場者がありました。 ・「ムジークフェストなら2014」を開催し、県内の文化芸術活動の活性化を図るとともに、「奈良・町家の芸術祭はならあと2014」を開催し、44,800人の来場者がありました。	＜奈良県の持っている強み＞ 1 学習・研究で「芸術・文化」を行う県民の割合が13%で、全国2位 2 趣味・娯楽で芸術鑑賞・文化芸術を行う県民の割合が全国的に見て高い分野が多い 3 文化活動に関する家計支出額が全国的に見て比較的高い水準 4 人口100万人あたりの博物館数が全国12位 5 3つの世界遺産をはじめとして文化遺産が豊富 6 コンサート等を開催できる世界遺産が所在（東大寺、薬師寺等） 7 能楽の発祥地 8 数多く残されている歴史的な町並み等の文化的景観 9 文化資源活用課を設置し、文化資源の利活用を積極的に行う体制を整備	＜奈良県の抱えている弱み＞ 10 多くの観客を収容できる施設が少なく、トップアーティストの招聘が困難 11 文化活動発表の場が少なく、アーティストは県外に活動拠点を求める傾向 12 県立の文化施設が老朽化
＜施策課題の進捗状況＞ ・「ムジークフェストなら2014」では、16日間の開催期間中に平成24年度に比べ倍以上の約83,000人が来場しました。 ・「新たな文化活動チャレンジ補助金事業」では、39団体からの応募がありました。また、奈良県大芸術祭では、平成25年度の倍近い398催事を認定しました。 ・なら燈花会の期間にあわせて県庁前で開催した県庁星空コンサートでは、48団体の応募があり、うち8団体が演奏を披露しました。 ・美術館、万葉文化館では他施設等から美術品等を借用して展示を充実しました。 ・万葉文化館では、「にぎわいフェスタ」等の実施により、入館者数は10万人を超えました。		
＜奈良県への追い風＞ - a 景気回復による文化関連消費の増加への期待 - b 歴史的な町並み等の文化的景観が多くの人に見直されつつある - c 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定 - d 2017年に奈良県で国民文化祭開催決定 - e 国による地方創生の動き	《強みで追い風を活かす課題》 【重要課題】上質な文化芸術に触れる機会の創出(2,3,7,a) 【重要課題】県内の文化施設が核となり、地域のにぎわいを創出(1,2,3,4,a,c) 【重要課題】国民文化祭の開催(2,d) 【重要課題】奈良らしい歴史展示の推進(5,9,e) ・未来のトップアーティストの育成(1,3,a,d) ・文化的景観を活かした文化芸術活動の展開(6,8,a,b,d)	《弱みを踏まえ追い風を活かす課題》 【重要課題】文化芸術団体等が行う発表の場の拡充(11,12,a,e) ・美術館、万葉文化館における展示方法の工夫(11,12,a)
＜奈良県への向かい風＞ f 著名なアーティストや作品は大都市での公演、展示に集中する傾向	《強みで向かい風を克服する課題》 ・文化芸術団体等への支援の拡充、強化(2,3,f) ・奈良らしい音楽祭の開催(2,3,6,f)	《弱みを踏まえ向かい風に備える課題》 県立文化施設の整備・改修等(10,12,f)

5. それぞれの課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
【重要課題】上質な文化芸術に触れる機会の創出	奈良県大芸術祭や、「ムジークフェストなら」等の県主催イベントを増加させるとともに、県立文化施設においても魅力的な催しを実施します。
【重要課題】県内の文化施設が核となり、地域のにぎわいを創出	万葉文化館、民俗博物館では、それぞれの特徴を活かした魅力的な催し物を継続開催するとともに、連携を強化します。
【重要課題】国民文化祭の開催	平成29年度の開催に向けて、基本計画案の策定及び広報展開を行います。
【重要課題】奈良らしい歴史展示の推進	クイズ形式の現地解説板の設置、デジタルサイネージやアプリ等を活用した情報発信を行います。
未来のトップアーティストの育成	県立ジュニアオーケストラの活動、奈良県美術展覧会、奈良県ジュニア美術展覧会を今後も継続します。
文化的景観を活かした文化芸術活動の展開	地域のまちづくり活動団体とアーティストの協働による「奈良・町家の芸術祭はならあと」を開催します。

弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
【重要課題】文化芸術団体等が行う発表の場の拡充	奈良県大芸術祭や、「ムジークフェストなら」等での発表機会の拡大や、出演者を公募して県庁星空コンサートの開催を今後も継続します。また、「ムジークフェストなら」における広報の充実及び地域の拡大を図ります。
美術館、万葉文化館における展示方法の工夫	より魅力的で親しみやすい企画展示を実施します。

強みで向かい風を克服する課題	今後の取組方針
文化芸術団体等への支援の拡充、強化	文化芸術団体、市町村等が実施する新たな文化活動に対しての補助事業を今後も継続します。
奈良らしい音楽祭の開催	「ムジークフェストなら」を今後も継続して開催します。

弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
県立文化施設の整備・改修等	老朽化が進む文化施設の整備を実施し、来館者等の利便性の向上を図るための整備内容等を検討します。

6. 平成26年度評価において見直しを行った課題、取り組み

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
県内の文化施設が核となり、地域のにぎわいを創出	文化施設の連携をさらに推進するため、文化施設連携モデル事業として、平成27年度より新たに奈良公園周辺文化施設との共通入館パスポートや県立文化施設4館の年間パスポートを発行することとしました。
文化的景観を活かした文化芸術活動の展開	地域の現場の方々が自らの町をどのように捉えているのかを明確にすることで、キュレーターや作家が地域の実情を把握し、アートに反映させるため、「奈良・町家の芸術祭はならあと」のメインとなる「はならあとこあ」の開催地域による公開地域プレゼンテーションを実施し、自らの町の歴史・現在・抱えている課題などをキュレーターと参加者に発表しました。
文化芸術団体等が行う発表の場の拡充	「ムジークフェストなら」における誘客促進のため、商店街や運輸業界との連携による広報展開の充実、市町村との連携や社寺等での開催による中南和地域への拡大を図りました。